

令和３年度第２回乳幼児教育保育推進体制の充実・活用強化に関する懇談会 議事要旨

１ 開催日時

令和３年９月２８日（火） 午前１０時～午前１１時３０分

２ 開催場所

広島市役所北庁舎６階 教育委員室

３ 出席者等

- (1) 学識経験者・教育関係者・関係団体代表者（オンラインによる出席）

朝倉 淳【座長】	（安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授）
徳永 隆治	（安田女子大学 教育学部 児童教育学科 教授）
渡邊 英則	（認定子ども園 ゆうゆうのもり幼保園 園長）〔欠席〕
松尾 竜	（広島市私立保育協会 理事長）
米川 晃	（広島市私立幼稚園協会 理事長）
安藤 康子	（広島市保育園長会 代表）
坂本 玲子	（広島市立幼稚園長会 会長）
尼子 博崇	（広島市小学校長会 代表）
- (2) 事務局（広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局）
保育企画課長、保育企画課調整担当課長、保育指導課保育園運営指導担当課長、
教育企画課長、指導第一課長、特別支援教育課長、教育センター次長

４ 議題（公開）

幼児教育・保育の質の向上に向けた「公開実践」の実施について

５ 傍聴人の人数

４名

６ 懇談会資料名

- ・ 幼児教育・保育の質の向上に向けた「公開実践」の実施について（資料１）
- ・ 令和３年度「公開実践」の計画（資料２）
- ・ 公開実践アンケート（実施園・連携園対象）（資料３－１）
- ・ 公開実践アンケート（参加園対象）（資料３－２）
- ・ 公開実践アンケート（参加園対象・事後）（資料４）

７ 出席者の発言要旨

事務局の説明に対し、以下のような意見・質問等があった。

※１ ○は学識経験者・教育関係者・関係団体代表者、●は事務局職員の発言を表す。

※２ 「乳幼児教育保育アドバイザー」は「アドバイザー」と表記している。

- ・ 公開実践の実施に当たってのポイントについて、公開する側、参加する側のそれぞれが意識したほうがよいことなどについて。

○ コロナ禍でもあり、受入人数などの制限をせざるを得ないが、全体としては、このような形で進めていくことは大事だと思う。一方で、せっかく今年度から始めるのであれば、何らかの成果、もしくは方向性が見えてくるとよい。目的である「全ての園が保育の質を高めようとする営みになっていくか」が大きな鍵となる。今年度は参加人数が少ないので、見るべき視点やクラス等がバラバラになり、意見交換が散漫になって話合いが深まらない可能性もあり得る。参加人数も少ないと参加者は「意見を言わなければならない」と思い、参加しづらくなることも予想される。実施園のテーマや、公開する学年やクラスを絞り、実施園・連携園・参加園で活発な意見が出るような工夫があるとよい。例えば、実施園が5歳児の公開実践を案内すると、参加園から5歳児の担任が集まってくるようになるという。実施園は、食育・散歩・園庭の環境のような、より詳細なテーマを決め、その経過等も含めて報告していけば、どの園も公開することに抵抗がなくなるのではないかと。公開実践が自園の保育を変えようとすることに結び付くとよい。

○ 活発な意見交換をできるようにするため、資料2に各園が意見交流したい内容を示されているが、公開保育の際には、この通り示されるのか、もう少し具体化した内容になるように修正するのか。

● 参加園への案内文の中で、「意見交流したいポイント」として資料2のとおり示すことを予定している。

○ 例えば、安佐南区の中筋保育園の意見交流したい内容については、子どもがどのような活動をしているのか、どのように学んでいるのか、ある程度視点が絞られているので、参加者も分かりやすい。環境構成についても、物理的な面があり、目につきやすいので率直な感想をもち、意見することができる。一方で、例えば沼田保育園の『子どもの心と体づくりについて』は、漠然とは分かるが、何を具体的に議論し、何を見ればいいのか、イメージが付きにくい。もう少し「意見交流したい内容」を参加者が見て、感じ取れるように具体的な視点を示さないと意見交流が活発にならないのではないかと。

● 園によっては、公開実践が行われるまでに日数があり、現時点の計画であることから意見交流の内容等の見直しもあると思うので、反映させていきたい。ただし、意見交流したい内容を極端に絞ると意見交流する際に発言が偏ってしまい、色々な意見が出しづらくなるのではないかと考えるので、バランスを図りながら調整していきたい。

○ 資料2で感じたことは、前回の懇談会の際の時に比べて、現在は、コロナ感染症が落ち着いてきたので、参加できる園数をもう少し緩和してもよいのではないかと。南区では、公立2園、私立3園の6名となっているが、人数が少ないと活発な意見交流にならないのではないかと。今後もこうした人数制限を設けていくのか。

- 参加園数の緩和については、コロナ感染症が鎮静化しつつある状況であるが、意見交流する場所の制約がある。幼稚園は遊戯室があるが、保育園は遊戯室のような収容できる場所がなく、人数の制約がある。また、今回は公開実践の取組が初めてということもあるので、実施園に負担が無いように行い、今後、回数を重ねて、参加人数を増やしていけるとよいと考えている。
- 公開実践に参加することのハードルが高くなり、意見交流の中で実りのある意見を言わなければならないと構える参加園があるのではないかと心配である。事前に公開する年齢を参加者に伝えておけば、参加しやすい。また、南区であれば、私立の幼稚園・保育園多くあるが、参加園をどうやって絞りこむのか疑問である。公開実践の目的にあるように、保育の質を高めるために、参加した園だけではなく、私立幼稚園協会として他の園にどのように波及していけばよいのかについて考えていきたい。
- 公開するクラスの年齢については、実施園から参加園に送付する案内文の中に、意見交流したい内容とともに記載するようにしている。参加する側のハードルが高く感じられることについては、前回お伝えしたとおり、普段の保育を見て頂き、その中で見た気づきを気軽に意見交流をしてもらいたいと考えている。
- 保育の視点については各園の主体性を大事にして欲しい。色々な公開の方法があり、細かいことを決定せずにそれぞれの実施園がやりたいことを大事に実施して欲しい。幼稚園と保育園との相互理解を深めることが公開実践の目的であるが、今年度の公開実践だけでは難しいと考える。今後も複数の回数を重ねて徐々に理解を深めていくスタンスでよいと思う。公立保育園、公立幼稚園でも子ども主体の保育について考え、実践している。資料2にあるように、子どもが主体的に遊ぶ姿、環境をテーマに取り上げている。子どもの関心、出会い、学び、葛藤について、参加者の気づきを大事にする公開実践であってほしいと思う。意見交流については、既存の子ども観や、幼稚園・保育園といった所属する施設の枠から出て、子どもの気づきを語り合うことでその専門性が高まると思うので、その時間を大事にしたい。語り合いの対象は子どもを中心にして考えて欲しい。保育者が子どもに対してどう援助しているかという視点を先に考えるのではなく、目の前の子どもの姿、子どもが興味・関心を持っているものについて語り合い、保育者と共有することが重要である。
- 自園は実施園であり、来てもらう限り、実りのあるものにしたい。漠然と保育を見てもらうのではなく、参加者には視点をもって参加してもらいたい。実施園は、指導案の作成がポイントだと考えている。公開実践があるからということではなく、保育を充実させたいという思いを生かしたいので、しっかりと子どもたちの姿を見て、子どもたちに育てたいものは何か、試行錯誤しながら指導案を作成している。指導案に書かれていることと目の前の子どもの姿を照らし合わせて、保育を見るというところをポイントにしていきたいと思う。具体的な姿を思い描きながら、実施園の保育を見て、自分だったらどうするか、といった視点で

共に保育を語り合いたいと思う。公立・私立、園の規模が様々なところから来られるので、みんなで共通のものを見つけるのは難しいと思うが、話し合う中でこういう保育をしたいという思いを出すことや、価値観をみんなと共有することなどして、公立・私立の垣根を越えて刺激し合ったり、困っていることについても励まし合ったりするなど共感し合いたいと思う。人数は少ないので、小さなグループになるが、ここで語り合う子ども観を広島市の目指す子ども像に広げることができるとよい。実りのあるものにして、明日の保育に勇気を与えられるものにしたい。気になるのは、時間である。公開保育に1時間弱、意見交流に1時間を予定しており、他の実施園もそれぞれ同じ時間を予定しているが、それぞれ1時間でできるのか心配な部分がある。

- 意見交流したい内容を設けることで、協議の視点が絞られて、何について話をすればいいのか、何について考えていけばいいのか、分かりやすくなっている。時間も限られているため、この方法で進めていけばよいと思う。それぞれの園によって環境が異なり、参加者が実施園の保育にギャップを感じると思う。実施園はいろいろ準備されると思うが、普段の自然体の保育を公開し、子どもたちの姿をしっかりと見て、学んだことを重視して語り合い、もう少し知りたいことについても意見交流することで充実していくのではないかなと思う。

見学する上で、自園と違うところにも視点がいつてしまうこともあるかもしれない。文化的な問題もあるかもしれないので、違和感を追求するよりも見て学んだことを大事にしてもらいたい。意見交流を行うと、保育に対して色々なアプローチがあると気づき、大切なものが見えてくるのではないかなと思うので、そういうことに気付けるものになればよい。

- 公開したい内容を具体化することで発言が偏る可能性や、端的に視点を絞ると意見を出しにくくなるかもしれないという意見があったが、実施園は自園の良さや、保育に力を入れていることを具体化して示すと、参加者は実施園の保育の視点を把握して、見学したり、意見したりでき、何かを学んでいく公開保育、研修会になるのではないかなと思う。何でも見て発言してくださいということでは、何にも身につかないおそれがある。負担が大きく難しいだろうが、事前に指導案を配布しておく、参加者は事前に指導案を確認した上で実施園の保育を見学することができる。そうすると、参加者は、実施園の力を入れて保育をしている点を理解したうえで、色々な自分の考え方をもったり、学び取ったり、実施園の課題を見いだすことができる。また、実施園は意見交流の中で、自園の課題について確認できる。実施園は公開保育で保育の視点をはっきり具体的に示し、参加者もその保育の視点を中心に意見交流する方がよいと考える。

- 公開実践を公開する上で大事なポイントは、意見交流したい内容を実施園が公開しているので、はっきりとその視点から意見交流できることだと思う。同時に保育の実践なので、実施園の視点以外で話し合いたいことがあると思うし、同時にハプニングもあると思う。実施園の視点に入れていなかったのでは話し合わないということではなく、実施園の保育の視点以外も受け入れつつ、話し合いを行うのがよいのではないかな。

- 保育を見学して、実施園が示した保育の視点以外に発見することもあると思う。参加者は、

実施園が示した保育の視点について見学した以上、実施園の保育に対して何かしら回答する必要があると考える。

- 意見交流したい内容や見る視点を絞ることにに関して指導案を事前に提出することが最適ではないかという意見があり、指導案の作成に力を入れていると話があった。指導案が見る視点を絞る一例になるとのことだが、全園で指導案を導入することが最善であるとは思わない。各実施園が視点となるものを決めずに各園の主体性に任せ、それぞれ工夫して出されるものを期待している。そして、子どもの姿から話して欲しいと思う。子どもに対しての関わり方・環境から話をするのではなく、子どもの姿を中心に話を進めていくことが大事だと思う。
- 指導案を作成することについては、重要なことなので力を入れている。ただ、園の負担を少なくするために週案でもよいと聞いているので、そこについては、各園のやり方で構わないと思うし、参加者に自園の目標を事前に示すことができれば、作成する必要はないと考える。ただ、時間の関係もあるので、これまでの取組、子どもの実態、今育てている子どもの姿などを指導案に盛り込んでおけば、意見交流のところで協議のポイントを絞れるのではないかと考えている。負担がない範囲で実施すればよいと考える。

・ アンケート調査について、翌年度以降の公開実践に活かすために聞いてみた方がよいことや分析したほうがよいことなどについて

- アンケートは、「実施に当たってのポイント」で述べたように、公開する学年と同じ学年の担任が参加することや、研修したい内容を定めるなどの工夫があれば、色々と前向きな意見がでてくるのではないかと期待しているので、提案通りでよいと思う。
- アンケートそのものは随分練ってあると感じる。内容が充実しているので、当日、アンケートを記入してもらう際には、時間を確保しなければ考えて記入することは難しいと思われるので、時間をきちんと確保することが大事である。また、公開したものを情報としてどのように広げていくのかということが重要である。前回、各園が研修したことを他園に広げていくことについて話したが、公開実践を行ったことについてアンケートを活用してまとめることは、今後の公開実践をする上で大切な資料となる。もう1点は、公開実践をしたことをどのように全園に広げていくかということがあり、公開実践の成果を実践記録としてまとめて、市内の園に提供して欲しい。アンケートが公開実践のためだけに終わらず、市内の幼児教育・保育関係に関わる人が情報共有できるようなものとして、例えば、実践記録集のようなものができないだろうか。
- アンケートについては、非常によく考えてあるので特に意見はない。実施園対象のアンケート、参加園対象のアンケートがあり、参加園対象の事後のアンケートがある。公開実践後は各園で改めて保育を見直していると思われるので、ここまでののであれば事後アンケートをとった後には、もう一度、参加園が集まって意見交換をしてもよいのではないだろうか。

- 事後のアンケートをとるよりも、事後に集まって意見交換したほうが、色々な意味で広がるのではないかと思った。コロナ禍で集まる難さもあるが、事後であれば、集まってするのがよいのではないだろうか。アンケートの内容については、きちんとしているので、改めて意見はない。
- アンケートを見た時に、公開実践のためのアンケートにならないかと感じた。この公開実践の意味を問うようなアンケートになっているのではないかと思う。例えば、設問2「子ども一人一人に応じて対応する力につながった」と参加者が判断するのだが、チェックが入るか入らないかで公開実践の意義が問われるのではないかと疑問に感じる。では、どのようにすればよいかは答え難いが、どのような学びにつながったかということや、どのような気づきがあったかということを自由記述でしっかり書いてもらおうとよいのではないだろうか。しかし、2回目、3回目に活かせるものとなると統計を取りにくく、読み取り難さも生じるだろう。
- アンケートには大きく運営面と感想の2つの側面があると思うが、来た人が様々な考え方に会い、自らの保育を振り返るためにも有効なものになるとよいと思うので、振り返りになるような項目が必要だと思う。運営面では時期や内容など次に生かせる項目も必要だと思う。項目の選択については、内容が少し複雑でどれを選べばよいか迷うのではないか。初めての試みなので、あまり難しくせず、感想を自由に書くことを主にしてもよいように感じた。アンケート結果の公開はどのような形で参加された方に返していくかが課題だと思う。
- アンケートの内容はよいと思う。自由記述の欄も参考になるので、後に活用してもらいたい。
- 今回の取組の情報をどのように扱うのかということについては、意見にもあったように、1つは記録を配布していくことがあると思う。資料4の事後アンケートの項目4「公開実践に今後も参加したいですか」という問いに「参加したい」には自園でも実施してみたいということを記しているように、今回の公開実践での取組はハードルを低くして、普段の保育を見て語り合うという機会を設けているので、参加した園の中から、このような公開実践だったなら取り組むことができるのではないかと思う園が出てくることを期待している。持ち帰って園で取り組み、やがて近隣の園に声をかけて公開実践を行うというように、広島市全体の取組として広がっていくことができればよいと考えている。
- 全体としてアンケート自体はおおむね内容がきちんと整理されていてよいのではないかということだった。同時にアンケートを含め、アンケート以外の方法でせっきくの公開実践で学んだことや受け止めたことを個人の中で、あるいは園内・外に向けて広く共有したり深めたりしていく流れも大事だろうという意見も出た。アンケートを通してということもあるだろうし、別の形でということもあるだろう。せっきくの公開実践がよりよい機会となるように事務局でも考えてもらえればと思う。

- 資料２の案内予定について、公開実践に参加しようと思う場合は、自園のある区以外にも、興味がある他の区に行くことができるのか、また、案内はそれぞれの園から個別に送るのか、全体に送るのか教えて欲しい。
- 資料２の園数は、あらかじめどこの園を招待するのかを決めたうえで園数を示している。
- 案内が来ていない園は参加ができないということか。
- 今回は初回であるため園数を絞らせてもらい、各実施園と協力園でどこに声を掛けるのかについて相談して主体的に決めてもらい、現在の園数になっている。